

フルオーデション Vol.5

新国立劇場 『エンジェルス・イン・アメリカ』

第一部「ミレニアム迫る」 / 第二部「ペレストロイカ」

フルオーデション企画第5弾は、
上村聡史演出でトニー・クシュナーの超大作を二部作一挙上演！



浅野雅博

岩永達也

長村航希

坂本慶介



鈴木 杏

那須佐代子

水 夏希

山西 惇



演出：上村聡史



芸術監督：
小川絵梨子

2月4日（土）10:00～ 一般発売 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 関

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1



作品について

小川絵梨子芸術監督が、その就任とともに打ち出した支柱の一つ、「演劇システムの実験と開拓」として、すべての出演者をオーディションで決定する「フルオーディション企画」。その第五弾として、1991年の初演以来世界中で上演されてきたトニー・クシュナーの名作『エンジェルス・イン・アメリカ』二部作を一挙上演いたします。演出にはフルオーディション第三弾『斬られの仙太』を手掛けた上村聡史を再び迎え、21年10月より公募を開始、12月に約3週間かけて開催したオーディションを経て、8名の出演者が決定しました。一部と二部それぞれ約4時間、計8時間の上演を、23年4月・5月の2か月に渡ってお届けします。

あらすじ

<第一部>

1985年ニューヨーク。

青年ルイスは同棲中の恋人プライアーからエイズ感染を告白され、自身も感染することへの怯えからプライアーを一人残して逃げてしまう。モルモン教徒で裁判所書記官のジョーは、情緒不安定で薬物依存の妻ハーパーと暮らしている。彼は、師と仰ぐ大物弁護士のロイ・コーンから司法省への栄転を持ちかけられる。やがてハーパーは幻覚の中で夫がゲイであることを告げられ、ロイ・コーンは医者からエイズであると診断されてしまう。

職場で出会ったルイスとジョーが交流を深めていく一方で、ルイスに捨てられたプライアーは天使から自分が預言者だと告げられ.....

<第二部>

ジョーの母ハンナは、幻覚症状の悪化が著しいハーパーをモルモン教ビジターセンターに招く。一方、入院を余儀なくされたロイ・コーンは、元ドラッグクイーンの看護師ベリーズと出会う。友人としてプライアーの世話をするベリーズは、「プライアーの助けが必要だ」という天使の訪れの顛末を聞かされる。そんな中、進展したかに思えたルイスとジョーの関係にも変化の兆しが見え始める。

翻訳 小田島創志からのメッセージ

『エンジェルス・イン・アメリカ』は、エイズ禍が拡大していた1980年代半ばのニューヨークを舞台としている。ストーンウォールの反乱以降も続いていた、ゲイに対する根強い差別や偏見のなかで、登場人物たちは、現状のままで立ち止まるのか、それとも変化を受け入れ、変化に向かって進むのか選択していく。エイズが、そして差別や偏見という疫病が蔓延しているという現実から目を背けるのか、それを直視して、戦いながら生きていく道に進むのか。登場人物だけではなく、我々全員が考えなくてはならないいくつかのテーマを、この作品は提示している。マジョリティ主体の規範や偏見が浸透するこの社会は、今も病気にかかっているのではないか。LGBTQ+への抑圧、偏見に満ちた発言、差別的発言が未だ相次ぐ日本で、同性婚が未だ不可能なこの日本で、この作品を、2023年に上演することの意味を考え続けたい。翻訳にとりかかって以来ずっと、アメリカ社会をきめ細やかに描く劇言葉の豊かさ、奥深さ、ユーモアとの格闘が続いている。このテキストと向き合ううえで自分の訳語が原文から目を背け、「立ち止まる」ことは許されない、そうひしひしと感じている。

演出 上村聡史からのメッセージ

『エンジェルス・イン・アメリカ』、いつかは手掛けたい作品でしたが、1980年代の社会構造、エイズの苦難と政治の抑圧という内容を、今の日本で鮮明に伝えるのは難しいと思っていました。しかし、この2023年、トニー・クシュナーが描いたこの劇に正対することにしました。それは、80年代のニューヨークに生きた登場人物たちが愛、偏見、政治、死といった問題に直面しては、想像上の人物や先祖の亡霊たちと対話しながら、混沌とした世界のなかで喜びを見出すために「変化の可能性」を強く提示しているからです。

二十世紀の呪いというべき現在進行形の虐殺、多数派における無自覚、そして、多様性を尊重する社会が問われる今、約三十年前に書かれたこの物語が、道標となる時が来ました。オーディションで選ばれた八名の俳優／闘士たちと、劇場を「変化の可能性」の醍醐味で満たしたいと思います。

スタッフプロフィール

作：トニー・クシュナー (Tony KUSHNER)

1956年、アメリカ・ニューヨークのユダヤ人家系に生まれ、コロンビア大学とニューヨーク大学で学ぶ。代表作『エンジェルス・イン・アメリカ』は第一部が90年に、第二部が91年に発表され、第一部はピューリッツァー賞及びトニー賞作品賞を、第二部はトニー賞を受賞、脚本を担当した2003年放送のテレビ版はエミー賞とゴールデングローブ賞を受賞した。これらの受賞歴に加え、これまでにピューリッツァー賞、オビー賞、イブニングスタンダード演劇賞、オリヴィエ賞等を受賞しており、12年に国民芸術勲章を授与されている。これまでの主な作品に“A Bright Room Called Day” “Slavs!” “Hydrotaphia” “Homebody/Kabul”、翻訳・翻案を行った“The Illusion”(原作：ピエール・コルネイユ『舞台は夢』)、『ディブック』(原作：シュロイメ・アンスキー)、『セツアンの善人』『肝っ玉おっ母とその子どもたち』(原作：ベルトルト・ブレヒト)、ミュージカル“Caroline, or Change”やオペラ“A Blizzard on Marblehead Neck”(共に作曲家Jeanine Tesoriとの共作)など。演劇の他にも、スティーヴン・スピルバーグ監督作品『ミュンヘン』『リンカーン』『ウエスト・サイド・ストーリー』など映画作品の脚本にも携わっている。現在は夫であるジャーナリストのマーク・ハリスと共にニューヨークに暮らしている。

翻訳：小田島創志 (ODASHIMA Soshi)

現代英語圏演劇の研究、翻訳家。お茶の水女子大学、共立女子大学ほか非常勤講師。ハロルド・ピンター、トム・ストッパード、デイヴィッド・ヘアを中心に現代イギリス演劇研究を行うほか、英語圏における小説のアダプテーション(翻案)について、研究成果を日本英文学会などで発表。これまでの翻訳戯曲に『管理人/THE CARETAKER』『HEISENBERG(ハイゼンベルク)』『BIRTHDAY』『ポルノグラフィ』『ウエストブリッジ』『リベリアン・ガール』『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』などがある。新国立劇場では『アンチポデス』『タージマハルの衛兵』を翻訳。また共著に「ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読むーディストピアからポスト・トゥルースまで」(秦邦生編、水声社)がある。

演出：上村聡史 (KAMIMURA Satoshi)

2001年文学座附属演劇研究所に入所。09年より文化庁新進芸術家海外研修制度により1年間イギリス・ドイツに留学。18年に文学座を退座。第56回紀伊國屋演劇賞、第22回・第29回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第17回千田是也賞など受賞。近年の主な演出作品に、『4000マイルズ』『A・NUMBER』『野鴨-Vildanden-』『ガラスの動物園』『森 フォレ』『Oslo(オスロ)』『ミセス・クライン』『終夜』『岸 リトラル』『炎 アンサンディ』など。新国立劇場では、『斬られの仙太』『オレスティア』『城塞』『アルトナの幽閉者』を演出。

出演者プロフィール

浅野雅博 (ASANO Masahiro)

文学座所属。劇団公演のみならず、外部で数多くの演出家の作品に参加している。映像、ナレーション、CMなど幅広く活動。自身のプロデュースによる演劇ユニット「イマシバシノアヤウサ」では、『モジョ ミキボー』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『アイルランド』それぞれロングラン公演を成功させた。2021年に結成された劇団「ヒトハダ」のメンバーとしても活動。

【主な舞台】『洪水の前』『マニラ瑞穂記』『僕は歌う、青空とコーラと君のために』『音楽劇母さん』『検察側の証人』『ピサロ』『機械と音楽』『ペール・ギュント』など。新国立劇場では『リチャード二世』『スカイライト』『ヘンリー五世』『赤道の下のマクベス』『あわれ彼女は娼婦』『るつぼ』『ヘンリー六世』『鳥瞰図』『浮標』『夜明け前』に出演。

岩永達也 (IWANAGA Tatsuya)

2011年、大学在学中にモデルのオーディションを受け、モデルデビュー。大手通販サイトのファッションモデルとしてキャリアをスタートし、雑誌、広告、CM、MVなどのさまざまな媒体で活動。19年、恋愛リアリティーショー『恋愛ドラマな恋がしたい シーズン 3』にタツヤとして出演し、知名度を上げる。近年は、映画『彼女来々』、ドラマ『アボカド日和-My avocado Diaries-』『リカ』に出演。

【主な舞台】『少女罰葬』『マトリョーシカ』『役者の証』『いのちのしるし〜泣いてたまるか〜』『Life pathfinder2013』『不思議な街の王子様 第2章』『Girls Rocletter』など。

長村航希 (OSAMURA Koki)

劇団四季『ライオンキング』のヤングシンバ役でデビュー。映画・テレビ・舞台・ラジオドラマなど幅広く活躍。代表作に、ドラマ『ゆとりですがなにか』『詐欺の子』などがある。最近の主な出演に、映画『キャンセル兄ちゃん』、大河ドラマ『青天を衝け』、ドラマ『呪怨：呪いの家』、配信『トークサバイバー！〜トークが面白いと生き残れるドラマ〜』、ラジオドラマ『真夜中のプラネタリウム』『傑作が落ちてくる』『アゴラ 69〜僕らの詩（うた）〜』などがある。

【主な舞台】『リターン THE RETURN』『往転』『さよなら西湖クン』など。

坂本慶介 (SAKAMOTO Keisuke)

2014年、コクーン歌舞伎『三人吉三』にて本格デビュー後、舞台を中心に映画・ドラマと幅広く活躍する。阿佐ヶ谷スパイダース劇団員としても活動。

【主な舞台】『Secret War-ひみつせん-』『老いと建築』『ウェンディ & ピーターパン』『Romeo and Juliet-ロミオとジュリエット-』『ともだちが来た』『じゃり』『モンスターと時計』『桜姫』『K.テンペスト 2019』『人間ども集まれ！2018』『MAKOTO』『白い病気』『家庭内失踪』など。

鈴木 杏 (SUZUKI Anne)

1996年デビュー。2003年、『奇跡の人』のヘレン・ケラー役で初舞台。映画『軽蔑』で高崎映画祭最優秀主演女優賞、『イニシュマン島のビリー』『母と惑星について、および自転する女たちの記録』で第24回読売演劇大賞最優秀女優賞を受賞。『殺意 ストリップショウ』『真夏の夜の夢』にて、第55回紀伊國屋演劇賞個人賞、第28回読売演劇大賞・大賞、最優秀女優賞、第71回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞。

【主な舞台】『凍える』『ムサシ』『キレイ-神様と待ち合わせをした女-』『フロズン・ビーチ』『修道女たち』『欲望という名の電車』など。新国立劇場では『キネマの天地』『トロイ戦争は起こらない』『マリアの首-長崎に幻を想う曲-』『星の数ホド』『るつぼ』に出演。

那須佐代子 (NASU Sayoko)

1989年から2013年まで劇団青年座に在籍し、退団後も舞台を中心に活躍。シアター風姿花伝支配人も務め、『ダウト～疑いについての寓話』『ミセス・クライン』『終夜』『THE BEAUTY QUEEN OF LEENANE』『いま、ここにある武器』などのプロデュース公演も手掛ける。『THAT FACE～その顔』『リチャード三世』で第47回紀伊國屋演劇賞個人賞、『リチャード二世』『ミセス・クライン』で第28回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞。

【主な舞台】『ザ・ウェルキン』『三十郎大活劇』『検察側の証人』『Oslo (オスロ)』『アルトゥロ・ウイの興隆』『チック』『まさに世界の終わり』『クライムズ・オブ・ザ・ハート-心の罪-』など。新国立劇場では『レオポルトシュタット』『キネマの天地』『リチャード二世』『ヘンリー五世』『ヘンリー四世』『長い墓標の列』『リチャード三世』『ヘンリー六世』『オットーと呼ばれる日本人』『浮標』に出演。

水 夏希 (MIZU Natsuki)

1993年、宝塚歌劇団に入団。宝塚の代表作『ベルサイユのばら』で、オスカル・アンドレなど主要人物4役を演じ、2007年、雪組トップスターに就任。雪組男役スター5人によるユニット「AQUA5」も結成し、世界陸上大阪大会にてデビュー曲を初披露。これまでの宝塚歌劇の枠を超えた外部活動で新しい宝塚ファンの開拓にも力を注いだ。10年、宝塚歌劇団を退団。その後はミュージカル・ストレートプレイ・ダンス等さまざまなジャンルの舞台に出演。

【主な舞台】『8人の女たち』『奇人たちの晩餐会』『大好きなお母さんへ-冷蔵庫のうえの人生-』『アルジャーノンに花束を』『細雪』『キス・ミー・ケイト』『ラストダンス-ブエノスアイレスで。 聖女と呼ばれた悪女 エビータの物語』など。

山西 惇 (YAMANISHI Atsushi)

京都大学在学中、劇団そとばこまちに参加。2001年に劇団退団後は、舞台のほか、映像作品でも活躍。映画『Dr.コトー診療所』『ナニワ金融道』『相棒-劇場版IV-』、大河ドラマ『真田丸』、ドラマ『水族館ガール』、TV『チコちゃんに叱られる!』などに出演。ドラマ『相棒』シリーズの角田課長役で全国区の知名度を得る。『イーハトーボの劇列車』『木の上の軍隊』で第27回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。

【主な舞台】『迷惑な季節』『世界は笑う』『夜来香ラプソディ』『日本人のへそ』『生きる』『七転抜刀! 戸塚宿』『宝塚 BOYS』『百年の秘密』『きらめく星座』『陥没』『イニシュマン島のビリー』『藪原検校』など。新国立劇場では『城塞』『マニラ瑞穂記』『象』『雨』に出演。

公演概要

【タイトル】 エンジェルス・イン・アメリカ

第一部「ミレニアム迫る」 / 第二部「ペレストロイカ」

【スタッフ】

作 トニー・クシュナー

翻訳 小田島創志

演出 上村聡史

美術 乗峯雅寛

照明 阪口美和

音楽 国広和毅

音響 加藤 温

衣裳 前田文子

ヘアメイク 鎌田直樹

演出助手 谷こころ / 渡邊千穂

舞台監督 棚瀬 巧

技術監督 小西弘人

芸術監督 小川絵梨子

【キャスト】

浅野雅博 岩永達也 長村航希 坂本慶介

鈴木 杏 那須佐代子 水 夏希 山西 惇

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2023年4月18日(火)～5月28日(日)

【料金(税込)】 A席7,700円 B席3,300円 1部・2部通し券(A席のみ) * 13,800円

【一般発売】 2月4日(土) 10:00～

※通常の座席配置での販売を予定しております。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

☆本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。

詳細: https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

* **Z席1,650円** Z席(各日10席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日の開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。* **当日学生割引**
公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について5.0%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。*新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【全国公演】

・穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール

2023年6月3日(土) 第一部 マチネ、第二部 ソワレ

・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

2023年6月10日(土) 第一部 12:00、第二部 17:30